

# 地域に広がるほ育管理改善

～ほ育作業立会で「いつもの作業」を再確認！～

(根室市)

## 1 活動の背景

根室市歯舞地域 酪農家9戸、後継者あり5戸

安定した経営が多い一方、施設の老朽が進む  
今後、施設投資が必要になる経営が多い  
規模拡大を伴う施設投資には後継牛の確保が必要

しかし

ほ育牛の事故率が<sup>※</sup>5.2%と根室市の平均(3.4%)よりも高い  
※耳標がついてから30日以内の死産率

ほ育牛の事故率低減をめざす

## 2 活動の内容

活動期間	活動方法	活動内容
4～6月	アンケート	哺育牛管理の実態調査
8月5日	講習会①	地域の課題提示と改善方向の提示
11月8日	講習会②	ほ育牛の冬期間の飼養管理方法
11月～1月	個別巡回	個別の管理改善支援 (ほ育作業立会)



ほ育担当者が集まり、世代を越えてほ育管理の情報交換が行われた(講習会)

### 地域の課題整理と情報共有

地域の共通課題を提示し、歯舞地域で取り組まなければならないことを具体的に示した。また、ほ育担当者同士で我が家のほ育管理について情報交換を行った。

### ほ育作業立会の実施

個別改善に取り組む際に作業をさらに詳しく聞き取ると、アンケートと実際の作業に違いがあることがわかったため、ほ育作業立会を実施した。実施後は速やかに提案書を作成した(図1)。

#### 方法

作業開始から作業終了までのすべての作業を記録。

「いつも通り」に作業してもらい、途中で代用乳やお湯の量などを記録(写真1)。

#### 目的

「いつもの作業」になっているほ育管理の再確認→課題の発見・改善

- ①長年ほ育管理を担当している→思っていたことと実際の作業にズレがないか
- ②担当し始めたばかり→自分の行っている作業が正しいか
- ③担当者が複数いる→全員が常に一定の管理ができていますか

#### 記録項目

代用乳の量	ほ乳器具の洗浄方法
お湯の量	人工乳の給与方法
お湯の温度	飼養場所の清掃方法

写真や動画を活用して記録！



写真1 お湯の温度を測る

## 見える化

多くの農場で、特に冬期間のほ乳量（栄養）が不足していたため、提案書では現在の給与方法で栄養が足りていないこと、どの程度増やせば栄養要求量を満たすのかを視覚的にわかるようにグラフ化した(図2)。

## 情報の共有

ほ育作業立会によって見出された課題を地域懇談会で報告し、地域の課題として共有した。



図1 提案書

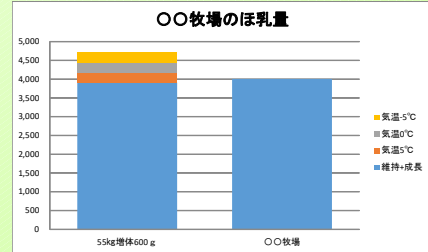


図2 栄養要求量のグラフ

## 3 活動の成果

### ほ育作業立会による具体的改善取り組み

- ・ 代用乳の増量
- ・ 代用乳の計量カップに線を付け、誰が作業をしても常に一定量になるような工夫 (写真2, 3)
- ・ スポンジや洗剤を使用したほ乳器具の洗浄

改めて自分の作業を客観的に確認できたことで、ほ育管理改善に取り組み、事故率の低減につながっている。



写真2 代用乳の量を量る

	開始年(H27年度)	H28年度目標	H28年度実績
ほ育牛の事故率	5.2%	3.4%	3.7%



### 農業者の声

「当たり前をやっていた自分の作業を見直すきっかけになった」 写真3 カップに線をつける  
 「飼養管理を見直すことでほ育牛の下痢が減ってやる気が出た」

### 地域への波及

ほ育研修会においてほ育作業立会を先行して実施した農業者が、立会を終えての感想、立会後の改善取り組みについて報告した。農業者の実際の反応を見ることで、ほ育管理改善意欲が地域に広がった。

ほ育作業立会を先行して実施した農場から立会の有効性を聞いたり、積極的に改善に取り組む若い担当者に対し経験年数の長い担当者がアドバイスを送ることで互いに刺激を受け、地域全体でほ育管理改善に向けての気運の高まりにつながった。

この取り組みにより、施設投資を予定している農場でも早い段階からの積極的な後継牛確保を意識してほ育作業が行われるようになった。